



(復刊十八号)

会長就任の抱負

会費一〇〇%
完納をめざして

会長 龍 知恵子

皆様の御推挙によりまして、此の度
会長の重責をおひきうけいたしました
が、何分にも浅学非才でありますので
今後は一層会員の皆様の御支援くれぐ
れもお願い申し上げます。

故佐藤会長が御苦勞をつまれて立派
に再建された日本女医会を、皆様と御
心の一歩でも前進いたすために、渾
身の努力をいたす覚悟であります。

日本女医会も再発足後十年になろう
としております。此の辺で何か事業を
いたさねば女医の力を結集する機会も
失い、会員の熱意もうすれどと懸念さ
れます。一つの事業を完成いたすには
少なくとも五年から十年の歳月を要しま
すし、又何をいたしますにも、先立つ
ものはまとまった資金であります。得
来に事業をするには、まづ何としても
一〇〇%会費が集まるような企画をた
て、また一方では一人でも多くの会員

を増やす事を皆様と御一緒に努力いた
したいと存じます。
一〇〇%会費が集まるような会費であ
ればつまり会員の心が一つになつてい
ると考えられます、そうすれば何でも
出来ると思ひます。

そんな会に育てた上で、若い方々を
も含めた皆様の御希望やお考えに依っ
て綿密に計画を立ててまいれば、日本
女医会として適切な事業をいたすのに
決して困難ではないと存じます。

私は三カ年の任期中に、会費一〇〇
%納入に一步でも近づき、日本女医会
の事業計画の土台だけでもつくりたい
と存じます。ぜひ皆様の御賛成と御協
力をお願い申し上げます。

總會の日、帰宅してあらためて「日
本女医史」を開きました。
明治三十五年 日本女医会誕生
初代会長 前田 園子

会の健全な育成を願う

副会長 吉 岡 ふ さ

時代の推移は目まぐるしいばかりで
私共日本女医会も龍新会長を迎え前途
が楽しみます。この会長の許に時代お
くれの私が光栄ある役職に就きました
事には奇異の感があった方が少なくな
いと存じます。それは体力学力の乏し
い、ただあるは年齢だけですから。新
進気鋭の方と交代する方がよいと私自
身も常に思つていたところでしたから
副会長にえらばれたと聞いた時にも進
退に迷い且つ考えました。

その結論は日本女医会々員の中にも
超年配の方もあり、好ましくないが若
いと思ううちに誰でも段々と年を重ね
る。そんなわけでの年をいった方の気持
ぶがよく判るような者も一人位役員に
なつていた方が都合がよくはないか。
又時たまあることですが、或るテーマ
について血気にはやる若人が場内を沸
かせるような熱演に出ると並みいる列
席者が之れに感惑されてつり返される
ような場面、一寸演出めいてはいます
が、こんな時に例の年齢が鎮静利にな

御挨拶

副会長 小 俣 喜 久 子

名会長佐藤やい先生が逝かれまして
早や四カ月、悲しみに閉ざされており
ました日本女医会も六月十四日龍知恵
子先生が会長に選出されまして、生気
をとりもどした感が致します。龍先生
は副会長として故佐藤会長のよき補佐
役で活躍された方で、日本女医会が國
際女医会に加入する際幾度も協議され
時期早尚の事も多々ある中に一躍ロン
ドン会議へ飛び立ち、日本女医会が正
式に国際女医会に仲間入りする責任を
果たされたのが一九五八年!

誕生後六十三年の日本女医会を確認
し先輩諸先生の御苦勞を偲び、身のし
まる責任感を覚えました。私の会長就
任の心境と併せて皆様に御報告申し上
げます。
(昭和三十九年七月)

た。兎角年齢は古くて頑固でわからず
やで消極的だと定評がありますが、長
い間若人とおつき会ひしてまいりました
で多少は若人のお気持も判るようにな
ぬほれもあり、又勉めてそれ等のそし
りを避けて乗る覚悟です。然し紙上で
はこのような立派な言葉を申しました
がそうすれば自分としては大出来だと
存じます。

日本女医会は過去数年で形骸が出来
其の間之れという波乱もありませんで
した。しかしまだ会の組織や対内対外
にも、改善の余地もあるように思いま
す。新会長の許日本女医会が段々と健
全な育成をいたしますよう、会員の皆
々様と互に睦しく会が発展いたします
よう御支援を御願ひ申し上げます。

以後三回の国際女医会議に六十四名
の本会員が代表者として列席すること
の出来る今日に至りましたことをよろ
こぶものの一人です。
私共は一致協力して新会長のもと、
日本女医会の為に最善をつくし、故会
長の御恩にむくわねばならぬと存しま
す。
さてこの時、私のような未熟なもの
が副会長の重責を荷なす事になりまし
て誠に冷汗三斗の思いで御座います。
何卒諸先生方の御支援と御協力を得

「微力では御座いますが、一生懸命努力いたす覚悟でございます。よろしく御願ひ申上げます」

寸感

三神美和

今回また日本女医学会理事に選出されましたことに責任を感じ、お選び下さいました会員の皆様の御好意にお応えしなければという思いで一ぱいです。日本女医学会が日本の全女医の唯一の結合団体であり、国際女医学会の一翼を荷うものであることを考える時、会員相互親愛と隔なき融和が最も大切であることを痛感するものであります。

六月三十日午後開かれた国際女医学会に出席する二六名の壮行会での和氣霽々たる情景はまさにこの理想をあらわしたものといえましよう。戦後バラバラになっていた日本女医学会をここまで再組織され、今日の盛會に導かれた故佐藤やい会長並びに龍新会長の御功績を今更乍ら称えずには居られません。今回新会長として龍知恵子氏が推薦せられましたのも、この御功績に負う所が大であると考えるもの

であります。先日六月十四日の総会で見られた熱意ある皆様の御討議は、如何に会員の先生方が日本女医学会に関心を持たれ、これを育てようという真情があふれている事を示すものとして私は本當にうれしく感じました。新会長先生は手馴れた家として知られて居りますので、この新会長の下に更に日本女医学会がよりよく発展し進むこと疑いなくと思います。然し会長一人の会ではなく、会員あつての会でありますので、私共執行部は会長を助け、会員の皆様と共に本會が国内的にもまた國際的にも重要視される様な会となりませうと努力したいと考えています。会員の皆様!! お互に手をとり合つて進もうではありませんか。(六、三一)

政治するこころ

山本 杉

かつてゾルゲ事件というのがあって尾崎秋実という朝日新聞の有名な記者が死刑になったことは皆さんもおぼえていらつしやるでしょう。尾崎さんが獄中で、たった一人の娘のために書き残したといわれる手記が

「愛情は降る星の如く」という本になつてベストセラーになりました。私はこれをよんだとき自分のない後に娘が最も正しく人生を生きぬくためには女医になることが一番よいと思うとすゝめていた文章をみて感動したのを忘れることができません。そのすゝめる理由として彼は医学は生活のなかのさまざまな矛盾を無くすからとズバリといつて居るのです。

生活のなかの矛盾、これは経済によつてなければ解決できないと考えているひともありましよう。

また思想によると思ひ込んで居るひともありましよう。私はある討論会で有名な評論家が社会革命によつて社会機構が変らなければ純潔教育も道徳教育もできないといつたのにおどろいたことがあります。このように考えがたりなければたゞの具には使われても理想が理想にならないで終ることはいくらでもあります。医学こそと彼がいつたのは、医学の科学としての筋の通つた正しいもののみかたこそ、その知性ヒューマニテイこそ人類を幸にするものであるといつたのだと私は思ひます。

今、世界はどの國も福祉思想による福祉國家の建設に大わらわです。

福祉國家としての最大の条件は、個人の幸福の確立にあるのですが、その安定への道は医学の知性による健康の確保と、ヒューマニズムによる人間関係の樹立、生命の尊重を土台においてこの福祉思想は「生まれながらにはよ

く存 もらう権利がある」と。

子供に対して人権の基本を、またすぐこの夫と家庭に於ける妻の真のいみの人間的幸福をと、また老後に不安のない保障をと人間のよろこびを打ち出して居ます。これらのすべてはその知性、即ち教育によつて人類がわがものとするものでした。

これを万人のものたらしめるために政治は地道に固づくりを、地域社会づくりを、そしてひとつづくりをしてゆかなければならないのです。一人のひとの幸福はそのまゝ人類のよろこびであり、母と子のつながりはそのままよ

青嵐の中の日本女医学会

大村 ひさゑ

き人間関係であり、夫と妻の間の最大のよろこびであり、老人の感謝の涙は人類の永遠のよろこびをいみするものでなければならぬと思ふのです。日本の政治は今日の段階に於いては近代性と前近代性の雑然としたなかにまだ本當のすがたでこのよろこびをつかみきつたとはいへません。私たちのぞみ求める幸福の確立のために、私は医学の知性をせいっぱいに活用して日本の固づくり、ひとつづくりの皆様が政治して下さることを心からお願ひするものです。

こんな題を書きたくなるほど今日の日本女医学会は初夏のその如く、まことに活々ときおいたつて居るように思ふ。洋々たる前途がうかがわれてうれし。

嘗て故佐藤やい会長が「この次の会長は、もう他の方へ譲らなくてはならない。どんなことがあつても私は出ない。しかし会は大切だから私は一會員になつて働く。吉岡先生が御苦勞をなさつて生み育てて下さつたこの日本女医学会だもの、その御遺業を汚すまいと及ばずながら私も努力してこれまでにしたものを、先細りにしてはならない。次の会長の下で私は懸命に會のために働く。人はその位置について見

先生が何んでもお一人でして下さるからと、いうなれば抛り掛り主義の気易さが非協力になつてしまつたのかも知れないが、先生は一人きりで深更まで考えた

か眠られないで、という心労をなささ
て居られた事は事実である。勿論東京
女子医大の重鎮であられた先生、至誠
会の真の意味での会長格であった先生
の事だからこの方面の御苦勞は言うま
でもないが、対外的にも国内的にも右
顧左盼しなければならなかった日本女
医会の現在までの状態の真只中で、先
生は万人に笑顔で接しられ、人を見て
法を説くの聖賢の心を地でゆかれたの
である、が精根遂につきて佐藤先生は
忽焉として逝かれてしまった。跡つぐ
日途もつけないで。

今日日本女医会が背風を探みくちや
に吹きまわられたとて何の不思議があ
らう。
日本女医会の古い事は日本女医史の
中に記載されているが私は私の頭の中
にある日本女医会のことをこの風の中
で静かに考えつづけていた。

日本女医会も昭和四年の春までは、
会員の殆どが東京女子医専の出身者で
あった。ために總會といつても至誠会
の總會のメンバーに加えるに四、五人
の茶煎頭のお女医先生という有様だっ
た。

昭和五年に鶴風会々員が卒業せられ
た。日本女医会は日本に只一つの女医
の統一機関であるから新卒のこの方々
を是非会員としてお迎えしなければな
らないという吉岡会長の命を受けて多
川澄子女史が大森へ出向された。その入
会勧誘には随分骨が折れたというお話
だった。がその年の日本女医会總會兼
新会員歓迎会に鶴風会からは相川女史

が一人出席されただけだった。それで
も吉岡先生は非常に喜ばれてこの一人
の相川女史を賓客のようにもてなされ
た。同じ新卒として百人以上も出席し
ている東京女子医専出のものに対して
は「お前達はそつちでみんなとおとな
しくお遊びよ……」と仰言るが如くに
あの時のことが昨日のように記憶に残
っている。願われなかつた子供の不満
の現われだつたか後日「先生、至誠会
があるから日本女医会なんてほんの少
しばかりの他人の混じっている会なん
て不要じゃありませんか」と申上げた
ところ「至誠会はどれほど大きくても
それは単なる同窓会である。同窓会な
らば大小の差こそあれ日本中には数え
きれぬほどある。日本女医会は日本に
唯一で、大切な、立派な会だ。亦名実
ともにそうしなければならぬよ」と
の仰せだつた。

それから三年して加多乃会の御誕生
であつた。そしてそろ／＼男医の応召
の激しさに医師が手不足となり、女医
の重要性が認められ、次々に全国に女
子医専が出来た。一人一人が其の部所
その外で働いてはいたが連絡の術がな
かつたのが実状であつた。

さて敗戦、押しよせた民主主義の荒
波、そこで痛感させられたのが個人の
力の弱さであり、団結の必要さであつ
たあらゆる職種に全国組合が出来た。
「だから医師には日本医師会がある」
というかも知れぬ。

しかし日本医師会会員十万人のうちに
女医が一万人いる。数的には九対一の

率でありながら誰が日医の理事になつ
ているか、誰が県の代表者として推さ
れているか、同種の医師でありながら
女医が男医の下積にばかりなっている
ということが多いのではなからうか。
吾々は男医と同様の医師であるとい
うことより外に女医でなければ出来な
いという仕事や女医が閉結さえすれば
必ずあると信じている。

だから日本女医会は、ただ会の中が
平穏なように！波風を立てぬように！
じつと寄り集まつてというような群衆
の会であつてはならない。力強い団結
の日本女医会は常に生き活きとしてい
たいものである。

この様な意味からも今度の会長選出
に際してはこの人に会長になつてもら
い、そしてこの様なことをやってみよ
う。この人を日本女医会の先頭に立た
せたらこの方面に向つて進めるんでは
ないか等々、会員各自がそれぞれ抱負
をもつて踏みきられた事と思う。その
結果が親会長の登場となつたのである
立たれた会長！ 立たせた会員！
会を挙げて一糸乱れぬ団結の下にいよ
いよ日本女医会の真意を發揮しなけれ
ばならない。

これがあの混乱期からずっと今日に
至るまでの日本女医会の命脈を御自分
の命にかけて護りつづけて下さつた故
佐藤やい先生に捧げるせめてもの手向
けではなからうか。

× × × × ×
× × × × ×
× × × × ×

本会の発展のため

隔意なき話し合いを……

久保田 くら

この度、はからずも日本女医会の理
事に選出されました。入会以来總會に
出席いたしましたのは三回を数える程
のなまけ者ですが、任期中は及ばずな
がら努力いたすつもりでございますの
でよろしく御願いたします。

今年の、總會に出席いたし、若い方
の姿が少数で、おどろき入りました。
この会においては、中老の私など若い
部類に属しなさか気をよくいたしま
したが、平常の仕事場における自分
を省みますと、すでに最年長、たくま
しい、若い力を期待する年代に到着い
たしております。なお日ごまましい働さ
をする年代はむしろ無鉄砲時代にある
と考えておりますので、現在まで、大
層御苦勞を積まれた先輩の努力を空し

また親子の意見が、或点では一致し
ない……との声をしばしば聞くところ
でございますが、世代の差からくる意
見の差は、或意味において当然すぎる
程当然でありませう。然し、到達する
目的において良い結果を得るならば、
義論百出の隔意なき話し合いもさける事
なく行いべきかと存じます。

若い方々にもミ、ロクのある会であ
つて下さることを希うのあまり、新米
にしてはすぎたる感想を申し上げます
お許しを。

(三九、六、二七)

七月十日速達で日本女医会理事になつて……と題し原稿依頼を
いたしました。以下速信を到着順に掲載します。
尚紙面の都合でのせられなかつた原稿は次回会誌に掲載いたします

佐藤 イクヨ

おおらかな温顔！ あの偉大さ！ し
みじみと憐い、今はみ靈安かれとひた
すら御冥福を祈るばかりであります。
日本女医会再発足以来、本部機構は
素より、東奔西走、地方支部組織も打
ち建てられ、国際女医会にも正式加盟

名会共佐藤やい先生突然逝かれては
や五カ月に近く、今日新盆を迎えまし
た。事あるにつけ、なきにつけ、あの

し、これで基礎はできた。至誠会のみで会長を独占すべきではない。次期会長は是非他の方へお願いしたいと常々洩らしていられたが、六月の改選期に故会長の御遺志通りに、副会長龍知恵子先生が当選され、故やい先生も「よかったよかった」とあの世でおっしゃっていただけることでしょう。

龍先生御当選おめでとう存じます。本会再発足当初から常に故会長を助けて会の運営発展に寄与された御熱意、御力量、御名声は衆人の認めるところでこの好果を結んだものと信じます。新会長の御就任を祝し、老も若きも、同窓会別などによらわれず、全會員一丸となって皆仲よく手をつないで前進して参りましょう。

私は数年来会計理事としてお手伝いさせて頂きました、今回もまた同様となりましたが、何卒よろしく御指導御鞭撻のほど御願ひ申し上げます。

会計理事として願うことは、本会の運営は会費が唯一の財源でありますから、會員は必ず会費を完納して頂きたくてあります。三十六年度会計収支は実に惨憺たるもので、昨三十七年度から会費十年前納を呼びかけて漸く立ち直って参った次第であります。日本女医会誌に会費請求の振替用紙が挟み込んでありました際は、ご面倒でしょうが御忘れなく御送金下さいませよう御願ひいたします。

次に会則には理事の被選挙資格の規定がありませんが、卒業後何年以上、入会後何年以上とか大体を決めた内規

を作つたら如何でしょう。若い層の方も理事となり新風を吹き込んで頂きたいものと思ひます。

至誠会、鶴風会、加多乃会以外の出身の方の會員数は二百十一名の少数で、新卒業期には本部から各大学厚生補導部長宛に入会勧誘方をお願いしていますが、お知り合いの方から勧誘して頂くのが最も効果的と思ひますからよろしく御願ひいたします。この日本女医会が名実共に本邦女医会全体の会として発展して行くことを念願して止みません。

島 津 フミヨ

今回また理事に選出されました。なにとぞよろしく御願ひ申し上げます。私ごときものはどの程度のお役に立つかしらと心苦しく存じておりますが、時間のゆるす範囲で少しでも会のためにと考えております。

このたびのオスローにおける国際女医会には多数の會員が出席されましたので、帰国後には種々な成果を伺えることと期待しております。つい数日前二、三の方から旅信を寄せられ無事に会議が終了したこと、日本医学の水準の高いおかげで大変奇遇されて有難いことであつたことなどを報らせて下さいました。

本会は御承知のように會員相互の友好を目標とし、また国際女医会に対する連絡機関としても重要な任務を果たしておりますが、これからの運営につ

いては會員ひとりひとりに対する問題を基盤とした事項を検討し適当な処理を樹ててゆきたいと考えております。どうぞ皆様方からも忌憚ない御意見を御出し頂きたいものでございます。

思えば前会長佐藤やい先生は終戦後における組織の再編成、本会の発展に非常な努力を重ねられました。新会長龍知恵子先生はその当時から共に苦勞を重ねられましたことと、さぞ感慨無量であられましょう。

ここにいま佐藤やい先生の新益を迎えるに当り追慕の情やみ難いものがあります。ありし日の故先生の面影を偲び小句を捧げて御冥福を祈らして頂きましょう。

克明にしろしたまえる手帳あり会議運びの君のたくみさ

胸にあまる思いありとや一夜さの不眠かこちて椅子に重たく(会議)

何事を思い極わむかうつむきて過ぎ行きましぬわざと声掛けず(路上)

笑ますときチラリと見えし金歯ありき些々たることなつかしきかな
リトル弥生われら愛称すその君の師のおん許に何を急ぎし

丸 山 芙 実

東京オリンピック開催もあと、三カ月に迫つてまいりました。各国の日本に対する関心もひとしおかと思われま

す。このたびは加多乃会の御推選にて常任理事にとのこと、今までは毎日の診療と家事に追われていました。私にこのような重要ポストを与えられて今更のように責任の重大さに戸惑つて居ります。先日の総会で新会長として龍知恵子先生が御就任なさいました。御目出度う存じます。この上とも日本の女医全部が入会しお互いに和をもつてつながらる魅力ある会として益々発展して行きますよう。尚国際的にもより一層交流してまいりますよう希望して居ります。皆々さまのお力添えを頂き私も微力乍ら無事つとめを果したいと念じて居ります。

戸 田 静 子

語学的ハンディキャップ等の理由により、国際的会議をひらくことの出来ないのは誠に残念に思ひますが、これからは、こんな事も克服して、国際的立場に立ちうるよう体制を整備して参りたいものと存じます。女医の社会的責任や地位の向上に努力いたしたいと同時に、国際女医会出席によつて得た印象を今後生かして参りたいと存ずるものでございます。

白 井 潔 子

此の度はからずも浅学非才の至らぬ私が、理事の末席をけがすことになりまして戸惑つて居るところでございます。皆様方の御指導の下に、その任を果すことが出来ますよう念じております。

さて、今年六月末、ノルウェーの美しい港サンデイフイヨールドに開かれた第十四、国際女医会総会に出席して感じたこととありますが、會員數二百にも足らぬノルウェーの女医会が、まことに立派な設備と心からの接待ぶりを見せてくれた事、各国の女医が立派な業績を堂々と発表し、また討論された事に感嘆した事でございます。

學術的には相当高いレベルにあり、また會員數も一万を擁する日本女医が

「日本女医会新理事になつて」と題して六月中に投稿するようにとの依頼をうけましたが、私只今は田舎で開業しており遠方ではあり申訳ないのですが理事会への出席懇懇と執筆する資格なしと自分で判断し失礼しておりました。ここ数年日本女医会も長足の進歩を遂げ、特に海外女医会との関連をもち中央(東京)に於いては色々活躍が目立って来ています。これは前会長佐藤先生並びに諸幹部先生方の御努力の賜物と感謝しますと共に斯界将来のため慶賀に堪えません。しかし現在関西又は津々浦々にいる者には未入会者も多く縁うすい感無きにも非ざであります。これは偏見に私共の責任と痛感致しておる次第であります。これには今回会長も龍先生がパトナツチして下さつて新しい機構で出発という事になつたのですから、日本女医会自身をうんと魅力のある会にし、

将来又会員数も増やして、日本医師会のそれとまでいかずともそのような実行力をもった。つまり今日の医療制度にまで直接発言権、実行力をもつ日本女医学会にしむけていったならば先程の魅力となつて会員も増え、増えれば会の力も得られて隆盛となつていくのではないかと考えます。この達成のためには今後は皆んなで力を合せて行きたいものと希うものであります。

中嶋 ふ さ

皆様には益々お元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。私事このたびはからずも理事をつとめさせて頂くことになりました。申すまでもなく到底その材ではございせんがおうけした上は多少共御期待にそいたいものと念じております。日毎に国際的医学の交流と医界の親善がさかになりつつある時、私共日本女医としての責任の重大さを痛感いたします。それにつけまして私共日本の女医は幸い永年におたる先輩諸師の御苦心によつて築き上げられた日本女医学会に全員入会し團結し、この会を一層立派なものに育て上げ、この会員であることを誇りとし、手をつないで世界の医界にもお役にたきたいと思ひます。私だけの夢ではないと思ひます。それにはまずまだ入会されていない方々、及びこれから女医になられる方々に呼びかけて必ず入会して頂き日本女医学会を一層高所に押し進めることが緊急事ではないでしょうか。就任の御挨拶にとりともめないこ

とを申し上げて失礼いたしました。皆様の御支援をお願い申し上げます。

佐堂 と き

蒸し暑い東京の梅雨空に凡ての活動力がひしめき合っています。その中で私等女医は最も辛い使命を帯びて活躍しているのです。人間愛の基盤に立つて私等女医は世界の隅々まで手を継ぎ合わせねばなりません。ましてや日本の国内の女医はお互ひに緊密な連絡の下に一致團結して睦み合ひ、女医としての使命及び女性としての責任を一層助長させる組織団体が必要なのです。それが日本女医学会であり度いと念じます。そう云ふ信念を以つて私は新会長の龍先生や新副会長の諸師の下で理事として大いに働き皆様の御役に立つ決心でございます。御鞭撻、御指導を御願ひして理事就任の挨拶とさせていただきます。

高山 艶子

速達拝見いたしました。總會には末席をけがし有能な諸師の活潑な御発言をたのしく胸にたたみ帰阪いたしました。新理事に任せられましたもの今はただ皆様のお荷物にならない様努力し女医学会発展のため、お役に立ちたいと念ずるのみでございます。どうかよろしく。

木原 シヅ子

日本女医学会が先輩諸先生方のたゆまなき御努力により年と共に広く海外にまで進出してまいりますことを非常に喜ばしく存じております。国際女医学会との交流は学問的なプラスと共に多くの医友を得られることでもあり、又世界諸邦国家などと呼ばれている今日、大いに諸外国と提携してまいりたいものでございます。

私はこの他にもう一つの希望を持っております。これは一開業医としての切実なる希いであるのですが、諸外国を見聞された方々の御意見を大いに国内の医政に反映させていきたいということですが。

日本の医業を前進させるために日本女医学会も団体としての力をもつともつと発揮すべき時期であると存じております。

橋本 恵美子

女性の寿命が七二、三才にのび時代はまさに女性にとつて、働きがいあるいは生きがいを感じしめるに不足のない人生の到来といえようか。戦前のそれと比較して隔世の感を持つと同時に五〇才、六〇才は今や老令者扱いにされないほどの夢多き人生を満喫出来るという訳である。嗚呼、アリガタヤ、モツタイナヤ。死にみやげにひと日異國情緒を味わつてこようとする老婦人もすいぶん増えたようである。が、半

面悩みの相談室を訪れる老婦人も目立って多くなった。とある調停委員は話しているが、その人達も別にぐだから生きる希望を失つたぐとは云つていないそうである。

科学万能時代、道徳欠如時代に少なからぬ抵抗を感じ、昔は良き時代かな……とひたすら懐古の情に涙ぐむ一方で、夢の超特急にはもうすぐ乗れそうだね、ハワイあたりまでなら私のヘンクリで行けそうだ。カラーテレビでオリンピックの入場式が見たいものだ……などと欲望もまたガメツイ。どのようかと思いがけぬ時代が訪れてくるやら予想も出来ぬ現代を結構楽しみ、せいぜい長生きしたいと願うのはけだし人間必然の要求ではある。

× ×

寛容と忍耐を旗じるしに四年間首相の地位にアグラをかいた池田氏が今回はきわどい所ですべり込みセーフ。一体、寛容と忍耐の精神とは何ぞやといえはそれはつまり少数意見の尊重だとおっしゃる。また、低姿勢とは即ちその精神を具体的に言語、動作で示したものと解してもよいらしい。過去四年間のあの姿、あの発言を低姿勢と呼び、少数意見の尊重だとすれば必要するに池田氏もそう大した器量人ではないな。彼の本性はやつぱり貧乏人は妻を食えぬにあるのぢあないかなどと國民は仲々手きびしい。

田氏は才気煥発型でもないし度量人でもなさそうだ。経済生長をこの上もなく自画自讃して、高度生長のかけにひずみが生ずるのは当り前ぐとうそぶいている人に、人類の幸福を云々する資格はない。

一体彼は社会福祉問題と真剣に取りくむ気持があるのかどうか私は大いに疑問を持つている。無医村対策はかけ声だけではどうにもならぬ。福祉国家の建設は理論や法律では片附かない。声を大に福祉国家を提唱するなら少くとも厚生大臣は伴食大臣であつては困る。

人間の眞の健康の意義が、高度の経済成長以上に重大な内容を持つことに気付いているなら厚生大臣はその道に相当の識見をそなえた、つまり本質をよく見分けるだけの能力を持った人が望ましい。一々厚生官僚にメモをもらつて、その範囲でしか答弁出来ぬようなじも付き大臣はもうこの辺で願ひ下げにしろいたいもの。といつても池田三選の決つた今日、彼の閣僚陣にそれを期待するのは無理かも知れないが……。

× ×

前座はこれ位にして、実は六月二十日の緊急理事会で新理事に一言づつぐという依頼があつたのを忘れていた訳ではないが九日附の速達で御注意を受け大変恐縮している。書きたいことはゴマンとあるけれども改めて、新理事の抱負をと云われるとさて、さしづめ申し述べたいことは何だろうか

ちよつと考えざるを得ない、と云うのも、今回新会長に龍生先が就任され、

故佐藤会長の御遺訓を受けついで行かれるにつけ、佐藤先生の時代に為すべく予定しつつ果し得なかつた諸々の業務の履行、更には日本女医学会の面目躍如たらしむるに足るより前進した内容を盛り上げて行こうとされている(と私は思うのだが)お気持ちに対して、何か具体的な事を申し上げてみたいと思

うし、また全国会員の方々もそうした方向を期待しておられるのではないかと思うからである。といつて一氣にあれもこれもと書き立てた所で実践には限度があるし余り有効とも考えない。私が申し上げたことはいつても理事会で云っている事以外に格別なものはないからその復習みたいなことになる。むしろ私はこの機会に本誌を通じて会員の皆様におたづねしたいことを二、三書いてみようと思う。その①は日本女医学会は親睦団体以上のものとして考えるべきかどうか、その②は政治活動についてどう云う見解を持つておられるか、そして③は内部構造の改革に関する御意見。それによつて私の意見、というか、考え方も自ずと変つて来る。親睦団体でよろしいと云う事ならば敢えてとかくの意見は差しひかえない。政治活動はいけないとなれば、

山本杉先生後援会にも自ずと限界が出てくるだろうし日医連との提携、他の婦人団体との交流等にも低触することになる。

内部構造の改革の中には担当部門の

拡大と整備つまり各パートの拡大と確立が先ず考えられる。

それらのパートに責任担当理事を配し適材適所にあつて、仕事の能率を高める態勢に組みかえするとか、特に都道府県支部に対する積極的働きかけと融和の為の支部担当部なども考えられる。本部の会計がとほしいからと云つて支部長にいつまでも出血サービスを強いるのは反省の必要はないだろうか。(会誌にもつと広告を利用すれば支部への還元金位は何でもないと思われが)

要するに日本女医学会本部は、全国の総まとめ機関として事業も全国的視野で、血のかよつた運営をすることが大切な点ではないだろうか。自民党ではないが近代化された問題提起とその実践を躊躇することなく行い得る行動力に私は全幅の期待をかけるのだが、これ等の私見に対して皆様の卒直な御批判を次回の会誌にでもお渡しし頂けるのをお待ちしています。

松岡宏子

(三九、七、一一)

御承知のように日本女医学会は、至誠会、鶴風会、加多乃会、その他の学校の卒業生を以て、構成された女医の会であつて、個々の同窓会の延長ではない。又会員が全国各地に散在していること、会員の殆んどが自分の主体となる大切な仕事を持っていることなどから会としては非常に難まりにくい。こ

れまでも、日本女医学会に入会しても、唯会費を払うだけで入会していることに何等の恩恵もないといふ不満がずい分出ている。実際に、たとへば開業していれば、直屬している医師会は、直接自分の生活にはわかへつてくる大切な会であり、又自分の属する学会も、

之又重要、おろそかに出来ない会である。その上殆んどの人が家事に対する責任をもっている。こういう現状であるから、女医学会の仕事を中心にして、自分の仕事をそのベースにあわせて、合間にやつてゆけるといふ人は、ほとんどいないと云つても過言ではないと思う。さてその中であつて、やつと基礎が出来かけて来た女医学会が、大きな仕事をしようとするのは、まだ無理があると思う。手近な中から小さな事でもおろそかにしないでしてゆくようにするのが一番いいと思う。例えば震災水害などのあつた時、みんなが持ち合せのサンプルの注射液や、薬を集めて送つてあげても、全員相互の授け合いは出来る筈、そういう事から又会員が増えてゆく。というように、そして段々に、日本女医学会としてお互いに知り合ひ、理解出来てくれば、理事も各同窓会からという選出母体から出すようにしたいでも、日本女医学会としての理事の選出も出来るようになってくると思う。

今から三年間、私はまだ、自分の仕事が入手任せには出来ず、隠居の身分でもないで、常任理事といつても、その責を果すことが出来るかと大変心配である。最近に見積つても、三年間毎月第三日曜日に理事会に出席するということ。それすら大変な重荷である。然し何とか努力して、折角ここまで成長して来た女医学会をますます発展させるように、ない知恵をしぼつて、少しでも役に立つことが出来るようにと願つている。

池田満津子

日本女医学会も佐藤会長逝かれて早や半年、名実共に前会長に倣るとも劣らぬ新会長を戴いて益々各方面に躍進しつつあることは御同慶の至りに存じます。

唯この際今一度考えねばならぬことが一つ、それは医師会の男子会員より「お互いに日本医師会員の一人として、女医さんも医者でしよう? 男医」と云うものは特になのに何故女医学会だけが日本医師会なり、国際女医学会の中に又在るか」と云われることがしばしば。日本女医学会は一般に甘える会ではない。女らしさを振りまわして特別扱いされる会ではないことと自覚して、女医ならではの出来ない、社会福祉への働き、女医ならではの分らない女子の問題等。きめの細かい貢献を社会にする会であることとお互いに胸に刻み込んで、女医でなければ出来ない働きをやらせて頂いたり、やつたりしたいと思ひます。

愚筆多謝、皆様の御健斗を祈ります

森千鶴

龍先生お日度う御座います。前途洋々たる日本女医学会発展途上に新しい会長として就任されましたことを心から御よろこび申し上げます。私も及ばずながら今回も常任理事としておつとめさせていただく事になりましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

友と語り合うことに依つて知性をのばす一時間の談話は一日の瞑想以上だと或人は中されました。抱負等と云う大げさな考えではご座いませませんが一言述べさせていただきます。或時の理事会の席上で毎月の理事会は回数が多過ぎるとのお声が御座いましたが、私は一回でも多く皆様とお話合ひの機会を作り固結し親しみ勉強する楽しい時間を持ちたいものと考えております。少しオーバーな言い方をすれば開業医の吾々は年間を通じて不眠不休で診療に追われ、月末月始めには夜を徹して請求書を書くと言ふ始末、ゆつくりと本を読む機会もなく努力すると云う気持ちを殺されているのが現状ではないでしょうか。今年こそはオリンピックと云も又新会長先生御就任を機会に一步進んで日本女医学会の名に於て社会的啓蒙運動を推進すべく、色々の具体案を練つていただきたいものと考えております。ほんの小さい仕事の一つ。例えば「パートの無料健康相談室」への進出でもよし、一カ月に一日二カ月に一日でも「血液型の無料検査」等。日本女医学会のPRの一端としてでも是非実

行にうつして敷きたいものです。大きく日本女医学会と云う名をかかげ、立派な世界へのつながりを持つ日本女医学会則第二条の目的に近づきたいものと考えております。どうぞよろしく願ひ申し上げます。

総会議事録

上田 葉

昭和卅九年度日本女医学会総会が六月十四日(日)午後二時より東京日比谷松本楼で開かれました。それに先立って午前十一時より同所で評議員会が開かれました。

評議員会

先ず三神理事により、出席者、委任状により会の成立することの報告があり開会の辞

つづいて佐藤やい先生他十名の物故された諸先生の御冥福を祈つて黙禱をささげました。

次に会長代理として龍副会長より、今更ながら佐藤やい先生の偉大さを痛感している。今日は会則の一部改正、会長選挙等重要な議題が多く、その上不慣れであるのでよろしく御協力願ひたいとの挨拶がありまして、議事に入りました。

三神理事により川那部副会長に議長を御願ひし
先ず小保理事より三十八年度庶務報

告

理事会十一回行
国際女医学会々長デルムンド女史歓迎会を十月末日行
三十九年二月二十七日前会長佐藤やい先生逝去、四月叙勲、故会長遺族より日本女医学会に百万円御寄付あり

第十回 国際女医学会議に本会より二十六名参加。会議は三十九年六月二十九日より七月二日まで。
次に真鍋理事より三十八年度決算報

(於松本楼にて挨拶する龍新会長)



告、卅八年度資産負債表の説明、日本女医史三十八年度会計報告あり会員承認、次に同じく真鍋理事により、卅九年度予算の説明があり、本年度に第十四回国際女医学会、オリンピックが開催されるので特に渉外費、臨時費を増額したとのこと全員承認いたしました。
次に大村理事より会則一部改正の件

でその提案理由が説明されました。第四四条は変更なし、第五本条に左の役員をおくの項で、先ず監事に関する件で、その必要不必要性について山田宮坂氏より質問意見があり、次に国際女医会連絡書記の件で、大原、中村、松岡阿部、荒川諸氏より質問、意見がありました。又監事のことに、山田、松岡氏の意見、これに対する三神理事の発言があり、これも原案を改正し、更にその他の項も全員異議なく、評議員会としての意見はまとまりました。

総 会

大村理事の開会の辞、出席者、委任状により総会の成立することが報告されました。

まず佐藤やい先生他十名の物故された諸先生の御冥福をおいのりして全員起立黙禱をささげました。

次いで会長代理として定方副会長の挨拶、四十年前に日本に帰り日本女医学会の話をきき感激し、それ以来会員になつて居る。佐藤やい先生のおそばに坐つただけでその偉大な、真剣なお氣持を知ることが出来、ありがたと思ひ、自分達一人々々がそのように考えてほしい。又ドクター・シツクが医学的に新しい進歩をつづけている世界で二つの國、それは日本とドイツだと言われ、今後も国際的に勇氣をもつて医学の発展のために、真剣な仕事をしてほしいというように中を中されました。

つづいて議事に入り、議長がきめられ、庶務報告が小保理事より、次に真鍋理事より昭和卅八年度決算報告、同時に昭和卅八年度資産負債表の説明日本女医史卅八年度会計報告がなされ龍副会長より三、質問、意見があり承認されました。

更に卅九年度予算表の説明があり、渉外費、予備費の著しい増加は、オリンピックの開催のためであるとの説明でした。之等予算に因り中村氏は特に会費の集りの予定が少いことを指摘され、社会の最高レベルをいく女医会が

会費を納める人が七〇%とはどういうわけかと、又、そういう予算のたて方等について質問意見が出され、之に対し、皆で一〇〇%までゆかなくとも年々納入が上昇するよう努力しよう。その方法を考えて、会費の充分納まる魅力ある会にしようということになりました。又福田氏より支部の費用についての質問、意見があり、卅九年度の予算は承認されました。

次は会則一部改正の件が大村理事より説明されました。(会則を示され一応全部説上げられ)第一条より四四条は改正なし、第五条は役員に関する項で、評議員会で訂正された改正案を示され、第六条より十条は変更なし、一番大きな改正は国際女医学会連絡書記の件で提案理由を説明されました。これに対し福田氏より連絡書記を理事にするとしたら等の質問、意見があり理事会で一度よく検討することを決めると。又監事を一番下におくのはどうか等の質問が福田氏よりあり、これも理事会で再検討することにし、他は改正案通り承認されました。

ここで時間の都合で別掲のような日本女医史の阿部副会長の講演があり、午後四時再び議事に入り(川那部副会長)会長選挙のことになりました。

大村理事より評議員会の龍先生を推薦することになった経過を説明、会則によりどのような方法によつたらよいかの発言を求められました。森川、松岡氏の発言があり、結局評議員会が推薦した龍先生を殆んど満場一致で推薦

することにしました。

その後その他の件として種々の意見が出されました。先ず福田氏より会の持ち方について、山崎氏より名誉会員名譽顧問、名譽〇〇として会に功勞のあつた方々を推薦する、そして若い方々をどんどん活躍して頂けるようにしたいとの発言あり、これ等は結構な意見で大いに取り入れ、すぐには変えられなくても、おいおいに同窓会単位でなく個人単位に、若い人に大いに活躍して頂き、魅力ある女医学会として立派に佐藤会長亡き後をうけてやつてゆきたいとの新会長就任の挨拶がありました。

不肖その任でないことはわかつているが、御推慮でやつと今その気持ちになつて来たから、使命が達せられるようよろしく御協力、御指導頂きたい。再び議事にもどり、川那部副会長がフレッシュな正義感をおり込んだ国際的にも活躍出来る女医学会にするよう皆で尽力したいと発言、別に古沢氏より会則の言葉について意見が出ました。会長を定める等というのではなく選挙なら選挙とはつきりして、誤解されるようなことのないようにという意見でした。之に対し副会長、三神、福田、大村各理事、川那部副会長よりそれぞれの発言があり、この会則の出来た時からの経過の説明があり、初めにきめた方々の意見も充分に尊重し、社団法人でもない、一つの友好団体の会則なので、初めは選挙となつてきたが選挙になることもあり、推慮で皆が

それに賛成すればそれでもよい事を荒立てないやわらかな表現でよいというので、この上もだんだんに良いものに直していこうということになりました。理事が各同窓会から十五名づつ出て居るのも至誠会の好意で同窓会の人數割でなく、しかし支部長は全部至誠会より出ている等一字一字に意味があるように書いた法人の法に従つてこう

【總會講演】

これからの開業医

日本医師 阿部哲男 会副会長

しなければならぬという法人でもない、その点を承してほしいとの説明がなされ、そして最後に新入会員に対する副会長の新入会の皆様の御活躍を期待するという歓迎の言葉があり新入会員の紹介。 閉会の辞は川那部副会長、午後四時四十分閉会いたしました。

現在の健康保険は昭和二年低所得労働者を対象に始まり、爾來各制度間でバラバラに拡大され、何等政治的反省ないままに国民皆保険に突入した。戦後の急速な経済成長は経済の二重構造所得格差をうみ、保険財政にも各制度間に著しい格差を生じた。上に厚く下に薄い所謂逆立ち医療保障である。組合健保は莫大な剰余金を擁し海に山に温泉にデラックスな保養所を造り、その医療給付は家族でも殆んど全額附加給付されている。これに反し四千万の低所得階層をかかえる地域圏保では、医療給付は低く貧弱な財政に悩んでい

金制度を設けて財政のプールを図り家族の給付率を七割とする。定年退職者五年、離職者一年とそれぞれ延長する。それ以後の老人病の発生時期には国保に転落する。即ち試案は被用者保険を中心としたもので地域国保は全く顧みられていない。換言すれば敢えて制度を複雑化し、役人の職場拡大を策しているだけで総合調整の名に似せきも値しない。

この不均衡と矛盾の解消は各種医療保険制度の統合による以外に道のないことは武見日医会長の以に提唱するところであり、日医の「国保読本」に尽してある。(三七、九)

厚生省が最近発表した医療保障の総合調整試案は被用者保険の間に調整基

って医療国営の路線を敷行せんとする底意を見逃してはならない。

一方経済成長に対応した診療報酬の緊急是正については、基礎技術料として再診料十割設定こそ医学教育と研究の向上に対する影響が大きい。中医協では並行答申された。そして再診料十割は政治の場に移された。某日刊紙は引上げの巾を八割と報じているがこれは答申には書いてないことで保険者官僚の悪らつなアドバルーンにすぎない

「これからの開業医」といっても開業医と勤務医との差別すべきでない。保険者官僚は病院診療所で区別せんとするが、医療制度調査会の答申にある如く設備の大小によって区別すべきでない。近代医療の概念と医療の主体性の理念から、健康増進と環境増進について地域社会において相協力すべきである。臨床検査センター、医歯会病院の推進はこれに役立つところが少ない。又医師の使命確立のために公共福祉を充実し、社会保険医療の近代化、診療内容の画期的向上をはかるべきである。日医学講座によるポストクラ

べきであり、臨床検査の充実普及、院外処方箋に高価薬の院外処方箋は安定経営に役立つであろう。

従来の医学は自然治癒の機能を中心としたが、抗生物質の開発以来臨床医学の態度が極めて積極化され、診断面治療面の態度変更を来した。然るに療養担当規則は旧態のまま医療の主体性を失わせている。換言すれば経済優先であり人命軽視以外何ものでもない。今こそ医師の社会的地位向上を図るべきである。それには医師の社会的使命確立と生存権を確立するために、健法の根本的改正をはからなければならぬ。

昨年三月医療制度調査会は三ヶ年の審議を経て医療制度全般についての基本方策を答申した。然るに本年五月全国自治体病院協議会は全く反対の意見を出している。即ち病院診療所の機能の分化、病院の組織医療と基幹病院の格付け、診療所の家庭医制度を説き、明かに医療公営を強調している。又地域保健調査会における医師会の自主性を否定している。保険者官僚が補助融資でつながる自治体病院協議会をつか

この度はからず至誠会側から選出されまして日本女医会理事の末席をけがさせていただくことになりました。

岡本糸枝

何分廿有余年大阪の公立病院に勤務してまいりましたので、温室に育てられた全くの世間知らずでございます。皆様方の格別な御支援によりましてこの責を果させていただきましたと感謝しております。

実は過日も日本女医学会評議員会及會長選挙の際總會に参加いたしました。会の空気に触れる機会を得ることが出来ました。皆様方の活潑な御意見や理事の方々の本会運営に当られる御熱心な態度を目のあたり見せて戴きました。大いに刺激されて帰阪した次第でございます。及ばずながらではありますが、今後とも大いに勉強を致したいと存じますので皆様方の御指導、御鞭撻のほど心からお願ひ申し上げます。

さて、大阪に於きましては従来之事柄から脱皮致しまして、日本女医学会大阪支部の組織が段々と整ってまいりまして、昭和三十八年から十の支部に区分されることになりました。各支部には支部としての機構が確立致しまして目下のところでは加多乃会及び至誠会から各五名宛の支部長が選ばれ、会員数は全部で四百三十四名が一丸となつて大いに頑張っておりますことは皆様と共に御同慶にたえない次第です。

勿論これらの支部は各地方にありまして支部と同様の役割を果たすわけでありまして本部との連絡は極めてスムーズに、敏速に全会員に浸透するようにいたしました。支部長は勿論日本女医学会評議員でありますから、この組織を通じて皆様のお言葉が直接日本女医学会の運

営にも響くことになるわけでありまして、将来の発展には明るい見通しがつくようになった次第でございます。

以上のように発足してまだ間もありませんが大阪の方では各支部に於いてはその地区の事情に應じ、おのおの特徴が活かされ支部長を中心として会員一同は相互の親睦や女医としての本来の使命に向つて覚悟を新にし、その間支部長の方々も本会の発展に日夜御尽力されておられます。

大阪支部のことにつきましては、亡き佐藤前会長から常々一方ならぬお心遣いをいただいておりますが、若し今日のように軌道に乗つて来ましたこの模様を御覧になることが出来ましたらさぞおよろこびのことでございます。

さて国際女医学会に連なる日本女医学会とそれに連結する各支部はここに始めて一貫した組織が確立致しまして全くとすつきりした体勢を整える段階にまいりました。そしてこの組織を根幹と致しましていよいよ飛躍、活動の時期にはいるのでありますが、恰度この時に新しい会長として龍先生をお迎えすることが出来まして一層本会の発展を約束されることになりました。

私は皆様と共に日本女医学会がより強力に、より盛大に、列国のトップレベルに立つ品格ある女医会となることを念願する一人として、大いに努力致したいと考えて居ります。

会費十年前納者氏名 (岐阜県立医大)

◎資金準備のため会費十カ年前納(老万円)に御協力下さるようお願いいたします。

◎本年度会員名簿を発行します。

振替送金用紙の裏面及び總會通知の際住居表示変更の記入並びに電話番号を記入して頂きまして、更に正確を期するため学位(有・無) 氏名(旧姓) 電話 住所(開業・勤務先) 訂正がありましたら至急本部に御届出下さい。

◎日本女医史御希望の方は本部まで。

◎日本女医史御希望の方は本部まで。

◎日本女医史御希望の方は本部まで。

古橋美智子 (岡山大学医学部) 石橋四恵子 (加多乃会) 岡部 陸子 福永ひろ子 (鶴風会) 犬飼美代 清水友代 岡田 清 宮坂登志子 吉田正子 (至誠会) 児玉翠枝 玉田まさ 妻木エミコ 毛利智恵 松波寿美 加賀美みや 小林梅子 三室節子 大内広子 西山登紀子 宮本 好 長池博子 藤田貞子 谷口量子 小野依子

会費五年前納者氏名 (至誠会) 石黒キヨ 竹内富美子 有留道子 山田優文字

昭和三十九年七月二〇日印刷 昭和三十九年七月三十一日発行 編集人 福 田 幹 発行所 日本女医学会 東京都新宿区市谷河田町19 日 本 女 医 会 電話(三三) 〇九六八 振替東京六九六八八 振替東京六九六八八 福田印刷株式会社 (題字吉岡弥生)

編 集 後 記

福田 幹 子

六月十六日新潟を中心とする大地震は、大正十二年の関東大震災を思いおこせました。しかし新潟市は地盤はよろしくないというので、被害もまた甚大でありました。同地在住のわれわれ日本女医学会の先生方が被災せられ、どんなにか御心痛の御事かと心からのお見舞を申し上げます。

六月の總會において、新役員がきまつて、これから新規参画しという言葉の如く何事も新しく、合理的にやっつけてゆきたいものと思ひます。別に新しい人のみを選ばれたわけでもなくとも一新して、強く、たくましく行くところを意識があります。などとえらそうなことを申しますが、私はこの日本女医学会が可愛いのです。この日本女医学会がまだ日本女医史雑誌として発足した第一号からの編集員であり、その上編集発行人というあまりうれしくない名前を貰つて、この雑誌の責任者として百十九号まで発行し、又現在の日本女医学会となつても相かわらず、同じ名前を頂戴して毎月の理事会に出席し、編集会議に出席しています。ここにおいて私が皆様にお願ひしたいことは編集のいかに困難であるかを知つて戴きたいのです。まづ原稿をお願ひしてもそれが期限までに集まつて来ないというところなのです。それで二日後は三日後五日おくれ、やがて十日位は夢の間におくおくれ、やつと何と何と集まつて、編集会議をひらき、印刷所に廻す。その編集会議とてもなるべく各自が出席出来るような日を選ぶなければならぬ。印刷屋とても亦予定期間をおくれる。校正に又手間どる。時々大なる誤植がある。それやこれやで一月位の後れが出てくる。勿論日本女医学会の経済が充分で編集専門の人を雇入

れることが出来たなら日限も後れず発行も隔月位には出来るだろうと私達はそれを念願しています。どうぞこの願いをお察し下さつて原稿をどしどし御寄せ下さることをお願ひ申し上げます。例えば前会長佐藤や先生の追悼号が六月おくれで出るなどは、故佐藤先生に對しても申わけないことと思つています。これというも原稿が集まらないからなのです。何とかしておたすけ下さることを、かきねてお願ひいたします。日本女医史雑誌十八号(本号)の編集会議は七月四日の四時から開会いたしました。出席者は佐堂とき、上田葉森千鶴、大村ひさ美、福田幹子の五人と事務の小川きみ子、でした。新役員の方々にお願ひした原稿の集まつたもの十九、とにかくこれ原稿の整理をし、足りないところは私共で補ひすぐ印刷に廻すことにしました。今回は新役員の方々の御感想を主としての特集でしたので、その方面の記事が多かつたように思ひますが、編集としてのお願ひは、多方面にわたつてお願ひしたいと思ひます。研究の発表、趣味の発表各地域における女医の活動状態等々お寄せいただきたいと思ひます。新役員の皆様必ず一通とお願ひいたしましたけれど、御多忙その他でお間に合われない方には、ハガキでもお返事願ひたいと速達を出しましたので、その御返事も一応誌上に掲載することにしました。

役員住所氏名 [注] ○印は常任理事

- 会長 ○龍 知恵子 千代田区大手町一之三 産婦人科一階 龍内科診療所 病(三)四八六八
副会長 ○吉岡 ふさ 新宿区市ヶ谷田町二の三九 病(五)五〇五六
- 定方 允代 中央区明石町三七 聖路加国際病院 (六九)〇三六一
- 川那部 喜美子 大阪府寝屋川市大字郡九六〇 関西医大香里病院 寝屋川(四)五八一
- 小 侯 喜久子 東京都武蔵野市吉祥寺南町三の二五五四 病(四)五二一三六
自(四)三三三 ④三七九八
- 理事 ○土倉 恒 新宿区荒木町二 (五五)一七一
- 竹内 茂代 新宿区三光町一 (五三)三四五〇
- 福田 幹 千代田区五番町六の一 (六二)八七二七
- 山本 杉 東京都北多摩郡久留米町南沢八七三 自(四)三三三 ④三四〇八
参議員室(五九)三一一 内線五七四
- 島津 フミヨ 杉並区荻窪三の三二二 病(四)七二二 自(五九)一五五〇
- 三 神美 和 世田ヶ谷区赤堤町二の五九八 病(四)七二二 自(三三)四九九八
(三三)一九四三
- 岡本 糸枝 大阪府城東区関目町五の三〇 (三三)一九四三
- 佐藤 イクヨ 新宿区戸塚四丁目都営戸山アパート番号館九号 病(四)七二二 自(三三)六六五四
- 中西 清子 新宿区市ヶ谷河田町一〇 東京女子医大細菌学教室 (三三)七二二
- 大村 ひさゑ 中野区宮里町二九 病(四)〇三六六 自(元)六六三〇
- 東條 一子 大阪市西区北堀江上通一の七二 (三三)三〇三八・三〇三九
自(三二)六七一〇
- 大内 広子 新宿区市ヶ谷河田町一〇 東京女子医大病院産婦人科 (三三)七二二
- 久保田 くら 新宿区信濃町一六 病(四)七二二 自(三三)三八三一
- 松岡 宏子 品川区平塚二の六四五 (元)九五九八
- 小野 春生 目黒区東町二四 病(六)八二〇一 自(七三)九四四四
- 森 千鶴 東京都北多摩郡国分寺町本多新田四八六 (四三)〇三一一
- 戸田 静子 兵庫県姫路市網干区興浜三四の一 網干(平)〇一二二
- 藤村 ナミ 埼玉県蕨市大字蕨四二九七 (四三)〇三一一

- 富山 幾子 大阪市西成区千本通一の二五 (六二)二五四五
- 大原 一枝 大阪府枚方市中振九一八 寝屋川(四)七一
- 福島 信子 東京都新宿区喜久井町二五 武蔵野方 (三三)五四八一
昭和四十年七月より京都府船井郡八木町八木東所七四
- 池田 満津子 大阪府旭区大宮北一の一〇九 (三三)二五三〇・六七七七
- 山口 三重 葛飾区上千葉町一三四一 (六〇)〇六七九
- 丸山 美実 江東区深川森下町一の一六一 (三三)九三六一
- 野呂 幸枝 大阪府旭区新森小路中一の一六一 (五五)一一四九
- 橋本 恵美子 大阪府大正区南恩加島町八九 (七三)八〇五〇
- 近江 久子 大田区上池上町一九五 (四三)〇六二四七
- 福永 ひろ子 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根六三 (四三)〇六二四七
- 栗原 久子 新宿区若葉町一の一五 病(六六)五一四一 自(三三)八〇四〇
- 中嶋 ふさ 東京都北多摩郡国分寺町二七二二 (四三)〇二七五
- 佐堂 とし 杉並区善福寺町一丁目 (五九)八七五五
- 中川 富士 大田区本蒲田三の三 (三三)三四二二・三四九〇
- 森 寿恵 練馬区小竹町一の三六 (九三)一八〇六
- 木原 シヅ子 大田区馬込東一の一三四三 (七二)七〇七四
- 藤 永 数江 渋谷区上原二丁目一の一八 病(四三)〇六〇七七 自(四六)〇六四〇
- 真鍋 昌子 大田区本蒲田二の一 (七二)一九八八
- 鈴木 文子 港区芝伊皿子町六三 伊皿子医院 (四二)〇四八五
- 柳 瀬 路子 江東区南砂町五の一九九九 (六四)一九七一・一九七二
- 三 刃 幸子 目黒区中目黒三の一三三四 (七三)五五五五
- 上田 菜 墨田区寺島町五の一五 (六二)七九八五
- 宮坂 登恵子 中野区本町通り三の一〇 病(四三)〇六〇七七 自(三三)〇五九一
- 白井 深子 世田ヶ谷区成城町三九八 (四六)二二五三
- 藤本 佐賀枝 世田ヶ谷区北沢二の二の七 (四三)五二九六